

ファイザーには、「Disability（障がい）について考える事を通じて、社員一人ひとりが強みを活かし、安心して活躍できる職場を実現する」という目的のもと活動している有志社員グループがあります。その活動を含めて、ファイザーの取り組みをご紹介します。

共生社会に向けて：視覚障害者柔道を支援し、理解を広げる

ファイザーは2018年より、NPO法人日本視覚障害者柔道連盟とパートナーシップを締結し、視覚障がい者柔道の普及と発展を支援してきました。2024年からはプレミアムパートナーとして支援を拡充し、国内大会への協賛や運営支援を通じ、競技環境の整備や選手の挑戦を後押ししています。



また、選手を招いた社内講演会や体験会の実施、社員による大会ボランティア参加を通じて、障がいへの理解を深める機会を創出しています。こうした活動は、障がいの有無にかかわらず、互いを尊重し合う企業文化の醸成につながっています。

信頼に応える仕事：横浜パッケージセンター

ファイザーには、顧客向けのダイレクトメールや各種資材の印刷、梱包、発送を担う横浜パッケージセンターという施設があり、精神障がいや知的障がいをもつメンバーが勤務しています。最近は動画編集や、SDGsの取り組みの一環として不要となった名刺や古紙を回収し100%再生紙として生まれ変わらせ、新しい名刺を作成する作業なども実施しています。勤務地に関わらず、社員はいつでも当センターでの職場体験やメンバーとの交流が可能で、メンバーの確かな仕事ぶりに刺激を受けるとともに、自分たちの業務が当センターのメンバーに支えられていることを実感しています。



ファイザー・グリーン・ラボが提供する生ハーブティー

ファイザー・グリーン・ラボでは、障がい者を含めた8人のメンバーが屋内農園でハーブや葉物野菜を育てています。これまでは社内イベントを通じた募金活動を行い、障がい者団体や子供食堂に寄付を行ってきました。2026年からは農園で育てたフレッシュハーブを収穫し、ハーブティーとして新宿本社で提供しています。障がいのあるメンバーとないメンバーが自然に交流する機会が生まれ、障がいを特別なものと捉えない意識の浸透に貢献しています。



ファミリーデーを通じた社員とご家族やパートナーとの交流と障がいへの理解の促進

ファイザーでは、社員とそのご家族やパートナーが参加できる「ファミリーデー」を毎年8月に開催しています。社内活動の紹介やファイザー・グリーン・ラボで作成したハーブグッズの提供などを通じて、交流の機会を楽しんでいます。

2025年はデフリンピックが東京都で開催される年であったことから、デフリンピックの概要紹介や指文字体験を実施し、障がいについて理解を深める取り組みを行いました。



社内の「ヘルプマーク」の啓発に取り組んでいます

ファイザーは2015年から医薬開発部門においてヘルプマークの啓発に取り組んできました。2024年には全社での啓発活動を開始し、社内SNSを用いた「ヘルプマークのリレー投稿」、社内ウェブサイトでの情報発信、本社や名古屋工場でのヘルプマークのサイネージ掲示、社内イベントでのヘルプマークポスターの掲示を実施しています。2025年7月には初めて制定された「ヘルプマークの日（7月20日）」にちなんだ啓発を行いました。

パトンを伝えています！「ヘルプマーク・ヘルプカードリレー投稿」
We are passing the baton! "Posts in relay about the Help Mark & Help Card"

ヘルプマーク・ヘルプカードリレー投稿
ヘルプマークは、周囲から助けを求めている状態や配慮を必要としている方が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるマークです。ヘルプカードは、障害のある方が日常生活や社会生活の中で困ったときに、周囲に自分の障害や配慮を必要とするおのれカードです。

ヘルプマーク・ヘルプカードをみんなにより身近に感じていただくために、大切な「Voice Message」で「ヘルプマーク・ヘルプカードリレー投稿」を実施しています。1日「リレー」までパトンを渡りました。社員様個別や各部署の状況を確認いただきたくと、チームごとにリレーをお願いします！

みなさんからのサポート・ヘルプマークに関するコメントも、お寄せしています。ヘルプマーク・ヘルプカードの理解を深め、届けている人がいらい、さげない声掛けや手助けができる、そんな一つのきっかけになれば幸いです。

**ヘルプマーク
リレー投稿**

今日は少し違う角度からの投稿です。みなさん、10「ヘルプマーク」の啓発ポスターの右下にQRコードのようなものがプリントされているのわかりますか？
実はこれ、QRコードではなく、「音声コード」なのです。「音声コード」とは録音の音声と文字情報を読み取ることができるコードで、専用のアプリや専用の機器を用いると周囲の音声を読み取ることができるのです。このヘルプマークの存在をきっかけに、「音声コード」の存在を知りました。社員様個別でもらったチラシにも「音声コード」がプリントされていました。公共の場では必ずこのようにしてあります。

自分をおかしく感じれば発音はわかりませんが、自分が不自由ながらも発音が出来る状態にいるとは限りません。（例えば発音に障害、年齢に伴い発音が低下してくる、視力が弱くなるなど）。そのような場合にも、このヘルプマークは助けになると感じました。



障がいに対する理解と共感を深める 1 週間

ファイザーは、毎年12月3日～9日の「障害者週間」に合わせて、障がいに対する社員の更なる理解と共感を深める取り組みを継続しています。2025年には、社内SNSを通じて、障がいや病気を持つ方々を応援する「障がい者週間100人メッセージ」を展開しました。また、12月8日には、「病気や障がいがあることが当たり前 - みんなにやさしい企業になるために - 」をテーマに、外部講師をお招きした講演会を開催し、全社員を対象とした啓発に取り組みました。



「誰もがスポーツを楽しむ機会」をサポート

イギリスで開催される障がい者トライアスロン「Superhero Series」の趣旨に賛同し、2021年よりグローバルファイザーの一員としてこの取り組みに参加しています。



Pfizer is a proud sponsor of the Superhero Series powered by Marvel

当事者や参加者と共にバーチャルチームを結成し、チーム積算距離で世界一周6万kmを目指すこのイベントは、障がい者のスポーツ参加を支援するものですが、大会公式SNSの賑やかな競技風景や、障がいに応じたチャレンジの様子（病院内でのウォーキングや補助具利用したりハビリ運動）から、社員がインクルージョンについて考える機会にもなっています。

すべての社員に、活動の「今」を届けるウェブサイト

社内向け情報発信では、『Disability関連の情報なら、あのサイトを見ればわかる』と全社員に認識してもらうことを目指しています。ウェブサイトは、単なる情報掲載の場ではなく、私たちの活動と社員をつなぐ重要な「入り口」です。



活動の結果をわかりやすく整理して発信するとともに、活動に関わるメンバー一人ひとりを紹介することで、実際にどのような想いで、どんなことに取り組んでいるのかというリアルな取り組みの姿が伝わるよう心がけています。また、読み手の立場に立って、視覚・聴覚に障がいのある方にも配慮した配色や、音声読み上げ機能などを実装しています。誰もが等しく情報にアクセスできる環境づくりを通して、Disabilityに関する活動目的の実現を目指していきます。

企業・団体情報

企業名：ファイザー株式会社

住所：東京都渋谷区代々木3丁目2番7号

事業概要：医療用医薬品の製造・販売・輸出入

URL：<https://www.pfizer.co.jp/>

